

プレスリリース カテゴリー：[Webサイト公開]

2026年10月13日発信

報道関係者各位

千葉豪雨から2ヶ月、水が引いても復興は終わらない

床上浸水1.8mの被災マンションが「防災マンション」への再生に挑む

専門機関の「3D雨水流出解析」を導入し、行政・事業者との三者協議による地域防災モデルの確立へ。

2026年8月13日に発生した千葉豪雨（線状降水帯）により、「サンクタス新松戸」（千葉県松戸市、全90戸）は南側の水路からの大規模な流水によって深刻な浸水被害を受けました（1階住戸床上浸水1.8m、負傷者2名、共用設備水没）。この度、管理組合は被災からの復興過程および科学的検証に基づく再発防止策を公開する「サンクタス新松戸 公式ポータルサイト」（<https://sanctus-shinmatsudo.org/>）を立ち上げました。

水が引いて2ヶ月が経過し、被災現場では「①生活再建（被災からの復旧）」「②財政再建（巨額の復旧コストと修繕計画）」「③治水対策（原因究明と再発防止）」という三つの課題に挑戦しています。



被災したマンション外観



住民説明会の様子



浸水発生時の激しい濁流

一集合住宅の被害にとどまらず、千葉豪雨にて最も深刻な被害を受けたマンションとして、全国の都市部で激甚化する内水氾濫の先行ケーススタディとして、多くのメディアや防災関係者から高い関心が寄せられていることを受け、本サイトを通じて報道機関様へ情報提供を行ってまいります。

＜本件のポイント（ニュース性）＞ 「水が引いた後の過酷な現実」と直面する「3つの再建」

【生活再建】 排水や電気の共用部仮設備を用いて少しずつ元の生活を取り戻しつつありますが、断水は続き、エレベーターや機械式駐車場などの生活インフラは麻痺したままです。本復旧への道のりは険しく、1階被災住戸は全員避難を余儀なくされており、再建の見通しは立っておりません。

【財政再建】 電気・給排水設備の全面刷新にかかる巨額の突発的コストを精査し、管理組合財務の破綻を防ぐため、将来へ向けた健全化を図る長期的な財政ロードマップの策定を進めています。

【治水対策】 3D雨水流出解析の進捗や行政・事業者との三者協議の状況を報告し、科学的エビデンスに基づく徹底的原因究明と再発防止を本サイトにて逐次発信してまいります。透明性の高い地域防災モデルの構築を目指します。

＜公式サイトの主な掲載コンテンツ＞ URL：<https://sanctus-shinmatsudo.org/>

1. 千葉豪雨水害被災と復旧・復興ロードマップ（被災当日の記録と課題に取り組むチーム体制）
2. 管理費・修繕積立金の財政再建（突発的コストへの対応と将来計画、復興支援のお願い）
3. 水害の科学的解明と地域治水インフラの強化（3D流出解析、三者協議の進捗）

＜取材・共同取材に関するご案内とお問い合わせ先＞

サンクタス新松戸管理組合では、報道機関様からの現地取材・インタビュー・データ提供のお問い合わせを広く受け付けております。現地取材や撮影の調整も承ります。

サンクタス新松戸管理組合 メディア対応担当：西澤（050-6867-2467）

メールアドレス：media@sanctus-shinmatsudo.org

所在地：〒270-0024 千葉県松戸市八ヶ崎緑町3-1

報道用画像素材ダウンロードURL：<https://x.gd/5PS54>（短縮URL）